

海老名市立有馬小学校 学校運営協議会 議事録
(令和4年度 第2回)

- 1 日時 令和4年10月25日(火) 9:45~12:00
- 2 場所 海老名市立有馬小学校 会議室
- 3 出席委員 村山 紀行委員、小松 明委員、渡部 美保委員、奥谷 婦貴子委員
遠藤 一義校長、前田 潤子教頭

4 会議の内容

(1) 委員長挨拶

本日欠席のため省略

(2) 学校長挨拶

修学旅行での6年生の様子、全国学力・学習状況調査の夢やいじめに関する調査結果、次年度運動会について

(3) 授業参観

(4) 協議

①第一回学校運営協議会後の報告(遠藤校長)

校長：ついでパトロールを各自治会に説明し、回覧板で地域に周知をはかった。各自治会における危険性に違いがある。

渡部委員：何人かからどういう風に回ればよいか問い合わせを受けた。顔がつながると、児童にとって声かけが普通になる。チラシに記載された時刻を見て、下校時刻に散歩してくれている人が増えた。

②第二回諮問内容(遠藤校長)

「地域とのつながりを大切にしたい体験的に学ぶ場の確保」

校長：全国学力・学習状況調査の結果から、「地域の行事に参加している」と答えた児童は23%であった。地域とつながりのある地域だけに、行事が中止になり、何もないと感じているのではないか。地域人材の情報を得たい。

奥谷委員：はるにれフェスタは地域の方のバザー、朝採れ野菜のブースがあった。

小松委員：レンジャーズがポップコーンやソーセージを広報活動とあわせて提供していた。青健連でスポーツイベントをする話があった。基本的に中学校区で。スポーツに触れることで子どもたちが選択肢を増やして欲しい。

渡部委員：学ぶ場としていちご農家のお手伝い、本郷のお囃子体験(存続の危機)、ゆめくらぶ(アクティブな敬老会)のカローリング、尺八の0B(図書ボラで読み聞かせとコラボ「ねずみの嫁入り」)、柳田さんのしめ縄と竹とんぼ

担い手がいないので農家は手伝いのオファーを喜ぶだろう。

小松委員：有馬小学校区に限定しなければ人材は見つかる。

校長：小中一貫として3校声かけて行事を行うこともできる。

渡部委員：本郷神社を借りて、お金券配付して昔、授業でおまつりをしたことがある。

小松委員：上河内に御神輿が保管してある。昔、はるにれフェスタで校長室に資料館から昔のアルバムを運んで閲覧できるようにしていた。

校長：有馬小学区は、父母から有馬小、祖父母から有馬小のつながりをもって
いる子どもたちが多くいる。地域の人に来ていただいて話を聞くことも
大切である。

村山委員：6年生向けでエアブラシ教室ができる。水彩なら紙に書ける。

校長：運動会の旗、スローガンでその技が発揮できるとよい。

渡部委員：子どもたちの作品の展示室が学校にあるといい。

校長：地域の方も展示できるといいですね。

小松委員：彫刻の好きな人とか出品してくれるといいですね。

校長：コミュニティルームのある学校も。学校を開く、学校から出て行く、学
校の中に入ってもらおうというつながりがもてるとよい。

小松委員：デジタルコンテンツを用いて、タブレットと地域をつなげる方法もある。
YouTubeで学校紹介してはどうか。有馬の地域もPRできるとよい。

奥谷委員：特売所マップ、無人販売所マップが入ってもよい。

校長：配信等で支援して下さる地域人材を紹介していただきたい。

渡部委員：三田さんに頼むとよい。

小松委員：富士ゼロックスに得意な人がいると思われる。

村山委員：商工会で紹介してもらおうとよいのではないか。

小松委員：レンジャーズはインスタ配信で広報活動をしている。今の人はデジタル
コンテンツで情報を得ている。

校長：有馬小学校もペーパーレス化を考えている。

小松委員：インスタ、YouTubeを見るだけでなく、作る喜びもある。

校長：学校から配信するものに地域から得た内容も配信する流れもよい。
それを児童がまとめていくような方向に。

渡部委員：日常生活の感度が高くなる効果もある。

小松委員：映像が残っていくと、引き継ぐことへのプラス効果もある。将来的なビ
ジョンとして、人と直接ふれあうこと、デジタルコンテンツを利用して
かかわることの両輪ですとよい。

(5) その他

今回は2月上旬に開催する予定。